

インキュナブラ書誌の歴史 (2)^[8]

雪 嶋 宏 一

近代的インキュナブラ書誌の基礎 —19世紀前半—

1789年、フランス革命の勃発は他のヨーロッパ諸国に大きな衝撃を与えた。同年11月2日国民議会はすべての教会財産を国家に接収すると発表し、教会財産の世俗化 (Secularization) を宣言した。これによりフランス国内の教会が所有する図書・文書も接収されることになった。ナポレオンはこの政策をヨーロッパ各地で推進し、教会に財産の世俗化を命じた。こうして、膨大な図書がフランスに運ばれたり、各地の図書館に運び込まれた。また、大量の図書が市場に横溢した。教会財産の世俗化は蔵書の大混乱をもたらしたが、逆に、これまであまり知られることのなかったインキュナブラを白日のもとに曝す結果となった。実際、Panzer を引き継ぎ19世紀の文献学の発展に貢献した書誌はナポレオン戦争以降のものである。それらは、近代的な書誌学の方法を取り入れて、より一層詳細な目録記述を試み、未知のインキュナブラを発見していったのである。

その最初の試みはイギリスの書誌学者 Thomas Frognall Dibdin (1776-1847) によるものである。彼はオックスフォードのセント=ジョーンズ・カレッジで法律を学ぶが、まもなく方向転換して聖職に就き、1805年には牧師に叙階された。また、若くして作家活動を始め、雑誌に詩文を発表していた。書誌学への第一歩は、1802年に上梓したギリシア・ラテン古典版本案内の小冊 *Introduction to the knowledge of rare and valuable editions of the Greek and Latin classics* (Glocester) である。本書は極

めて未熟なものであったが、それを有名な書物収集家 Spencer 伯爵 (George John, Second Earl Spencer, 1758-1834) に献呈した。伯爵は当時すでに Caxton 版やハンガリー貴族 Károly Reviczky 伯爵旧蔵のギリシア・ラテン古典刊本コレクションを収集していた [Hobson 1970, p. 268]。伯爵はその返礼として Dibdin に蔵書の閲覧を許した。Dibdin はそれを利用して大幅に改訂増補を行い、*Introduction* 第2版 (London, W. Dwyer) を1804年に刊行した⁹⁾。対仏大同盟の最中、伯爵はイギリス議会の中枢にあり、1806—7年には内務大臣を勤めた。その後、議会活動から身を引き、散逸した祖先の蔵書 Althorp Library の再構築を目指した。Dibdin との関係が密接になるのはこの頃である。Dibdin は蔵書目録作成を伯爵に提言して、1811年に小冊 *Book rarities, or A descriptive catalogue of some of the most curious, rare and valuable books of early date; chiefly in the collection of the Right Honourable George John Earl Spencer* (London, W. Bulmer) を発表した。しかし、書誌学的未熟さのため、多くの誤謬を含んでいた。Dibdin はその反省に基づいて、1814—15年に4巻本の目録 *Bibliotheca Spenceriana, or A descriptive catalogue of the books printed in the fifteenth century, and of many valuable first editions, in the Library of George John Earl Spencer* (London, W. Bulmer) を上梓した¹⁰⁾。本書には伯爵の蔵書を代表する木版本7点と1,004点のインキュナブラおよび古版本が収録されている。第1巻が木版本、神学書、ギリシア・ラテン古典、第2巻がギリシア・ラテン古典の続き、第3巻が古典、文法書、語彙・辞典、その他、第4巻が第3巻の続きとイタリア書、カクストンを始めとする英書、補遺・訂正、3種の索引にあてられた。Dibdin は序文において書誌記述の方針について述べている。それによれば、コレクションを注意深く記述し、葉数、折記号、各コピーの状態を記述するという。折記号の記述は書誌学史上初の試みであるという (v. 1, p. v)。

実際どのように記述しているのかをインキュナブラの最初を飾る Gu-

tenberg の「42行聖書」(GW 4201) を例に説明してみよう。先ず簡略な記述で, Biblia Latina Vulgata. Supposed to have been printed by Gutenberg, at Mentz, between the years 1450 and 1455. Folio, 2 vols. 解説として, First Edition of the Bible; and probably the first work printed with metal types. (...) This is commonly called the Mazarine Bible, on account of de Bure having first discovered a copy of it in the library of Cardinal Mazarin,... と印刷文化史的意義を強調している。テキストの書き出しについては, The work begins at the top of the first column, on the recto of the first leaf, having the first three lines printed in red と説明して, incipit 以下を記述している。そして, This epistle occupies nearly three and a half. On the bottom, of the second column of the fourth leaf: Incipit plogus in penthateucū moisi which is printed in red. と巻頭の構成を記している。さらに, 第2巻の書き出しにも言及している。次に, 先達の研究に基づき, マザラン版の特徴となっている40, 41, 42行に変化する行数と各巻の葉数を記す。さらに, Each of the columns are about 3 inches and 3/4 in breadth, and 11 1/4 in height; having a space of about 7/8 of an inch between them. と版面の寸法を細かく計測している。そして, コピーの状態の記述では, 紙の状態, ウォーターマークなどを記す。続いてパリ所在のマザラン版の状態に言及し, 最後に参考文献を付している (v. 1, p. 3-6)。このようかなり詳しい記述を行なったが, テキストの終わり, 活字の特徴, Gutenberg の他の作品との関係などには触れていない。

Panzer の記述と比較してみよう (v. 2, p. 137, 88)。Panzer は「42行聖書」をマインツの印刷年不明書の3番目に置いている。書名 Biblia Latina に続いてコレクションがあり, 巻数, 葉数, コラム数, 行数が記されている。特に, 行数は最初の4葉は40行で残りは42行とあり, 不正確である。そして, テキストの記述では, 第2コラムの最終2行の記述, 最終

葉の第1コラム最終4行と第2コラム初めの5行の記述が示されている。活字の特徴では1457年のいわゆる「マインツ詩篇 *Psalterium Moguntinum*」(H 13479)との類似を指摘している。最後に目録典拠および参考文献が挙げられている。このように比較すると、Dibdin は Panzer と比べ相当に詳細な記述を行なったわけであるが、その反面、目録としては冗長に過ぎ、また、書誌学的に重要な点を見落としていたり、記述の順序にも合理性を欠いているといえよう。しかし、本書により Spencer コレクションは諸外国でも有名になり、また、詳細な目録記述は次に述べる Hain に少なからぬ影響を与えたことは疑いない [Rath 1945, S. 71]。

近代的書誌の第2の試みはドイツの Ludwig Friedrich Theodor Hain (1781-1836) によるものである。彼は、ポメラニアで生まれ、ベルリンのギムナジウムで学んだ。その時代、後に東洋学の泰斗となる Julius Klaproth (1783-1835) と知り合っている。1801年に Klaproth とともにハレ大学に入学し、言語学を専攻した。翌年には早くもその才能を発揮して、ペルシア詩人 Nizāmi のラテン語初訳を試みた (*Nizami poetae narrationes et fabulae Persice ex codice ms. nunc primum ed. subiuncta versione Latina et Indice*. Lipsiae, 1802)。翻訳は高く評価され、Hain も自身の才能に自惚れるようになった。同年 Klaproth らとともにヴァイマルに移り、ゲーテのサークルに出入りするようになった。ゲーテも彼らの印象を記しているという [Rath 1925, S. 166-168]。ヴァイマル時代、Hain は幸福で享樂的な日々を送ったが、学生生活に戻るため1805年にライプツィヒへ移らなければならなかった。ここで彼はどうか学位を取得し、翻訳で生活の糧を得ていたようだが、自惚れが強く浪費癖のためずいぶんと困窮したようだ。1812年、Brockhaus 社の *Konversationslexikon* の編集長としてアルテンベルクで編集者生活を始めた。彼の編集は高く評価され、事典は版を重ねた。この成功によって一層重要な企画が彼に与えられることになった。それが Hain と書誌学とを結びつけたことになった *Allgemeine bibliographische Lexikon*, Bd. 1-2 (Leipzig, 1821-30)

である。1816年、編集主幹にはドレスデンのザクセン図書館の若手司書 Friedrich Adolf Ebert (1791-1834) が選ばれ、Hain は熱心に興味深く彼を補佐した [Rath 1925, S. 171]。本書は古今の書物の解題事典で、その内容とともにどのような版がこれまで刊行されているかを詳細に記述している。この仕事において Hain は多くの書物を調査しつつ書誌学の方法を学び取り、その魅力の虜となっていた。

当時、全ヨーロッパに吹き荒れたナポレオン戦争はすでに終結していたが、教会財産の世俗化により、教会、領主、国王の蔵書は大混乱をきたしていた。例えば、バイエルンでは写本とインキュナブラがミュンヘンに移送された。貴重書を含む大量の図書がバイエルン科学アカデミーの部屋、廊下、屋根裏に詰め込まれ、かなり危険な状態であったという [Hobson 1970, p. 140]。市場にも書物が横溢していた。Dibdin はドイツ旅行の際ミュンヘンで貴重な木版本やインキュナブラを購入して Spencer コレクションに加えている。Hain もまた古版本の収集に熱心であった。熱心なあまり多額の負債を抱えてしまった。Brockhaus 氏の金銭的援助にもかかわらず、彼はそれに仕事で応えようとはしなかった。ついに Brockhaus 氏からも見放され、もはやアルテンベルクには居れず、ライプツィヒへ移り、1820年には、ウィーンを経てミュンヘンに向かった。彼は、そこで貴重なインキュナブラのコレクションが廉価で市場に出回っているのを目のあたりにすると、すぐにその売買を Brockhaus 氏に勧めた。そして、1475年までに印刷されたインキュナブラの記述とファクシミリ図版の刊行を提言し、自身の書物に関する知識を活用しようとした。しかし、Brockhaus 氏には古版本の商売に参入する意志がなく、またその出版もコスト高のため実現困難であった。ところが、Hain の中ではこの企画が、ミュンヘンに集積されたインキュナブラを基に Panzer を改訂して、新たな総目録を作成するというものに醸成していったのである。

こうして、1821年10月に Hain は Brockhaus 氏に、Panzer 10巻本を八折判 1,600 ページ (100折り分) 以内に収める目録 *Catalogus alphabe-*

ticus omnium librorum usque ad annum 1500 typis expressorum の刊行を提案した。11月にはさらに次のように詳報した。すなわち、それは Panzer を継承するものであり、2巻本で10ないし12ターラーの値段のアルファベット順のインキュナブラ総合目録である。収録点数は約15,000点で、そのうち約7,000点は綿密に調査してアステリスクを付す。少なくとも700点の新発見を含み、Panzer に収録されていない1,400—1,500点を収める [Rath 1925, S. 178]。しかし、彼に対する Brockhaus 氏の失望は大きく、その出版を認めなかった。そのため彼は他の出版社を探し、翌年3月にシュトゥットガルトの Cotta 社の承諾を取り付けることができた。こうして、インキュナブラ書誌の近代を大きく拓くことになる *Repertorium bibliographicum, in quo libri omnes ab arte typographica inventa usque ad annum MD. typis expressi ordine alphabetico vel simpliciter enumerantur vel adcuratius recensentur* (Stuttgartiae, 1826-38) (略号: **H** あるいは **Hain**) の刊行が決定された [Rath 1925, S. 179]。

本書は2巻4分冊 (v. 1, pars 1: 1826; v. 1, pars 2: 1827; v. 2, pars 1: 1831; v. 2, pars 2: 1838) で、最後の1冊は Hain の死後、Cotta 社が不完全な遺稿を編集したものである。上記の書簡ではすぐにでも完成しそうであったが、このように10年以上を要した原因は Hain の怠惰さと傲慢さに他ならない。ところが、本書が今日でも近代的インキュナブラ書誌の基礎と評価され利用されるのは、Panzer=Dibdin の書誌記述を体系化した詳細な記述方法と文献学的見地からの配列と書名の記述、16,299版の収録点数 (Hain 自身による補遺がその他多数ある) であり、Hain の創造的で入念な仕事によるものである。その方法は、ミュンヘンの Hoh- und Staatsbibliothek を利用して、Panzer に収録されたインキュナブラをできる限り確認し、また新発見のものを加えて詳細に記述してアステリスクを付した。一方、未確認のものは Panzer などから転記した。書誌の配列は基本的に著者名順であり、それぞれは印刷年順であるが、数ヵ国語の版がある場合はラテン語版を原則として優先した。印刷年不明のものは葉

数の多いものあるいは行数の少ないもの順とした。書名はテキスト中から採用した。また、巻末に印刷地・印刷者の索引を付し印刷史的な検索の便を図ろうとしたが、完成することができなかった。

「42行聖書」(H 3031*) を例に書誌記述を見てみよう。書名は *Biblia latina*。続いてテキストが記述される。*F. 1a rubro* (第1葉表朱字): *Incipit epistola sancti hieronimi ad || paulinum...Deinde nigro* (以降黒字): () *Rator ambrosius || tua michi manus=||cula pferens...* 同様に第5葉表の書き出しがある。第1巻の最後は、*f. 324b col. 1. l. 21: laudet dñm. Alla*。第2巻書き出しは、*F. 325a: () ungat epistola quos iūgit sacerdoti = ||um: ...* 第513葉表, 第514葉表書き出し, 巻末第641葉裏の最終行が同様に記述される。続いて、*s. l. a. et typ. n. f. litt. missal. s. s. c. et pp. n.* {印刷地・印刷年・印刷者の記述なし, フォリオ判, 活字の種類 (Missaltypen), 折記号・キャッチワード・ページ付けなし}。そして、*2 col. 42 l. (except. f. 1-4, quae habent 40, et f. 5a, quod habet 41 l.) 641 ff.* {2 コラム, 42行 (第1—4葉40行, 第5葉表41行を除く), 全641葉}。さらに、ミュンヘン所在のコピーの説明, ヴァリアントについての記述と参考文献を加え、最後に、(Mogunt., Joh. Guttenberg [sic] c. 1450-55.) と印刷地, 印刷者, 印刷年を推定している。つまり、著者, 書名, 巻頭の書き出し・本文の書き出し・巻末の記述 (コロフォンなど) からなるテキストの記述をその箇所, 改行位置を示しながら原文のまま写し, 印刷事項, 判型, ゴチックあるいはローマンなどの活字の種類, コレクション, 版組, 全葉数などを記している。それ以外に, 木版, 商標などへの言及もある。こうして, Hain は独力で新たなインキュナブラ目録法を考案して19世紀最大のインキュナブラ書誌を編集するとともに, インキュナブラの新たなパラダイムを提示した。

著者名順の目録はすでに述べたように17世紀の Beughem 以来行なわれてきたが, Hain の書誌は今日的意味で本格的なものであった。後に標目・配列がさらに研究され, 各国の全国所在目録 (後述) に多大なる影響

を与え、20世紀のインキュナブラ書誌・目録の主流となった。また、分析的で詳細な書誌記述はインキュナブラ書誌の必要条件となり、一層精密に記述することでヴァリエーションや異版の分析が進展した。一方、本書が未完に終わったことと、後の研究で新たなインキュナブラが多数発見されたことにより、Hain の訂正増補が盛んに行なわれた。その主なものは、GW の初代会長 Konrad Burger (1856-1912)、マンチェスター法律協会図書館長 Walter Arthur Copinger (1847-1911)、Dietrich Reichling (1856-1912) によって行なわれ、さらに *Gesamtkatalog der Wiegendrucke* に引き継がれ、今日に至っている(後述)。

活字の分析 —19世紀後半以降—

19世紀後半、イギリスとオランダではインキュナブラ研究に自然科学史的方法を取り入れようとする試みが重ねられた。イギリスでは、William Blades (1824-90) がイギリスにおける印刷術の祖 William Caxton の研究にそうした方法を初めて採用しようとした (*The life and typography of William Caxton*, v. 1-2. London, 1861-63) [BMC v. 1, p. x] (補注)。

また、Laurens Coster 伝説をもつ低地地方(オランダ、ベルギー)でもインキュナブラの詳細な調査が進められていた。ハーグ王立図書館長 Johannes Willem Holtrop (1806-70) は館蔵のインキュナブラ1,582点を収録する目録 (*Catalogus librorum saeculo XV^o impressorum, quotquot in Bibliotheca regia Hagana asservantur*. Hagae-Comitum, 1856) を上梓し、低地地方で印刷されたインキュナブラの多くを明らかにした。そして、翌年にはこれに基づいて、低地地方の印刷史を体系化しようとして、*Monuments typographiques des Pays-Bas au quinzième siècle* (La Haye, Nijhoff, 1857-68) を分冊で刊行し始めた。本書は、木版本10版と低地地方21都市58人の印刷者とその主要作品、および印刷事項不明書10版をファクシミリ図版を参照しながら編年順に解説する大冊である。図版は306点のインキュナブラから、活字の見本となる箇所、コロフォン、木版、

商標など 670 図を選択して 133 葉の図版に納めている。そして, Laurens Coster 問題を中心に低地地方の印刷史を略説した後, 印刷開始の早い都市順に, 各都市内は活動の早い印刷者順に配列して, 仕事内容, 活字や木版あるいは商標の特徴, その系譜などを詳細に記述した。因みに, 活版印刷の最初は Coster 伝説を考慮して, ハーレムの ‘Éd. de Laurent Coster et de ses successeurs’ であり, 1844年に発見された *Donat de 31 lignes* と1751年に発見された *Abécédarium* の2断片が挙げられている。Holtrop はこうしてインキュナブラの細部を図示することによって活字・木版・商標などの比較分析を可能にし, その研究の重要性を明らかにした。

Holtrop の *Monuments typographiques* が完成してまもなく, ケンブリッジ大学図書館で貴重書を担当していた Henry Bradshaw (1831-86) は, 1869年にベルギーのヘントで販売され一部を同図書館が購入した Meyer Collection のインキュナブラを, Holtrop の印刷史的配列法を応用して分析を試みた [Bradshaw 1870-1889]。彼は, ドイツ, イタリア, フランス, オランダ, ベルギーの20都市で印刷された86版について印刷史的に配列し, 簡略な書誌と判型, Hain や Holtrop に基づく目録典拠を記し, 書誌学的な注釈を行なった。彼は, ‘The study of palaeotypography has been hitherto mainly such a *dilettante* matter, that people have shrunk from going into such details, though when once studied as a branch of natural history, it is as fruitful in interesting results as most subjects.’ と述べ, 自然科学史的方法による活字研究の重要性を説いた [Bradshaw 1870-1889, p. 221]。そして, Holtrop の業績を高く評価しつつ, さらに方法論を確立するために, *Monuments typographiques* を用いてオランダのツウォレ (Zwolle) で使用された活字について詳細な分析を行なった。彼は, 1479—1500年間に使用された活字を11種類に分類し, その組合せによって12種のグループにまとめ, さらに大きく4期に編年した。因みに, Holtrop はツウォレの印刷を1479年, 1479—80年, 1480—

1500年 (Petrus de Os de Breda=Peter van Os), 1497—1500年 (Tymanus Petri de Os de Breda=Tyman van Os) の4期に区分したが, Bradshaw は1479—83年, 1484—92年, 1493 & 1497—98年, 1497/8—1500年の4期とし, Peter van Os の活動を1479—1500年, Tyman van Os の活動を1500年以降(?)と結論づけた [Bradshaw 1870=1889, p. 222-226]。

続いて, Bradshaw はこの方法を用いてオランダのインキュナブラ印刷者の編年順リストを発表した [Bradshaw 1871=1889]。オランダの印刷開始を1471—73年として^叫, ユトレヒトを始めとする14都市と印刷地不明の印刷者53人についてそれぞれ活字と商標の種類を分析し, その使用の最も早い年代を明らかにし, さらに Holtrop の *Monuments typographiques* を参照するため図版番号と書名を付した。例えば, 前述のツウォレの Peter van Os は, 1479年12月22日から最初の印刷所 (First press) を始め, 1484年5月26日以前に4種類の活字 (Type 1-4) を用いて印刷を行なっている。そして, 同年5月26日から2番めの印刷所 (Second press) を開き, 7種類の活字 (Type 5-11) と都合4種類の商標 (Device 1, 2a, 2b, 3) を使用したことが明らかとなった。こうして, 1人の印刷者の活動が使用した活字と商標によって編年的に整理され, それぞれのインキュナブラの正確な位置付けが可能となったのである。つまり, 15世紀の印刷工房で行なわれた仕事内容が時間の流れの中で正確に捕らえられるようになったのである。

Bradshaw がこのような研究を発表すると, ハーグでもそれに応えるように低地地方印刷のインキュナブラ書誌が, Holtrop の薫陶を受け王立図書館長の職を後任した Marinus Frederik Andries Gerardus Campbell (1819-1890) によって上梓された。本書 *Annales de la typographie néerlandaise au XVe siècle* (La Haye, Martinus Nijhoff, 1874) (Campb) は低地地方で印刷されたインキュナブラ1,794版を収録する著者名順の書誌である。著者名・書名の豊富なクロスレファレンスとともに, 巻末には,

印刷者のアルファベット順索引があり、それぞれの作品が編年順に記載されている。さらに、この索引に対する印刷者名と都市別の索引が備えられ検索の便を図っている。また、索引の最初には、かつて Holtrop が Coster 伝説と関連づけて Haalem の印刷として記した印刷事項不明書が ‘La proto-typographie néerlandaise (à Utrecht?)’ , として纏められている。書誌記述は、著者、書名、印刷地、印刷者、印刷年、葉数、活字の種類、Holtrop *Monuments typographiques* (=HMT) の参照、行数、折記号、フォリエーション・ページ付け、キャッチワード、木版などの有無、判型の順に詳細に記述されている。ハーグ王立図書館所蔵のものは判型のあとにアステリスクが印されている。続いて、テキストの記述が Hain よりもさらに詳しく行なわれ、最後に、ハーグ王立図書館に所蔵されないものについては所在と目録の典拠、さらにその他の注が記されている。Campbell は現物の調査のために低地地方はもとより、イギリス、フランス、ドイツの図書館を訪れているが、それでもなお目録上でのみ知られるものは、基本的な書誌記述と目録典拠を記載している。

こうして、低地地方ではインキュナブラの全国書誌が世界に先駆けて確立され、以降最近に至るまで繰り返し補遺が行なわれている⁽²⁾。

Holtrop=Bradshaw=Campbell が基礎を築いた活字研究は、フランス、ドイツ、イギリスの研究者に大きな影響を与え、各国で研究の基礎資料となるファクシミリ図版が刊行された。フランスでは Olgar Thierry-Poux, *Premiers monuments de l'imprimerie en France au XVe siècle* (Paris, Hachette, 1890) が写真製版により刊行され、ドイツでは Konrad Burger, *Monumenta Germaniae et Italiae typographica: Deutsche und italienische Inkunabeln in getreuen Nachbildungen* (Berlin, 1892-1913) がドイツ、イタリア、スイスのインキュナブラを纏め、イギリスでは E. Gordon Duff, *Early English printing; a portfolio of facsimiles of every type used by English printers and in English books printed abroad during the XVth century* (London, 1896) が上梓された。特に、

イギリスにおいて活字の分析が進展して、Bradshaw の印刷史的配列法をヨーロッパ全体に拡大する試みが若き Robert George Collier Proctor (1868-1903) によって行なわれた。

Proctor はオックスフォードの学生時代から、コーパスニクリスティー・カレッジ図書館所蔵の古版本目録を作成したり、ボドリアン図書館が所蔵するインキュナブラの一部を目録化するなど古版本に非常な情熱をもっていった。1893年、大英博物館に就職すると、インキュナブラの再編成に取り組み、1520年までにヨーロッパで使用された活字の調査を開始した。そして大英博物館所蔵のインキュナブラの目録を簡略な形で上梓した (*An index to the early printed books in the British Museum; from the invention of printing to the year 1500: with notes of those in the Bodleian Library*, v. 1-2. London, Kegan Paul, Trench, 1898-99) (Pr)。書名が示すように本書には、彼が以前に行なったボドリアン図書館所蔵のインキュナブラ調査の結果も取り入れられ、両図書館のインキュナブラ目録という性格を与えられた。彼は序文で本書の書誌学的方法を述べている。その中で、活字の分析方法について触れ、第1行目の小文字上端から第20行目の小文字下端(いずれも short letter) までを計測する20行計測を行ない、それに基づき活字の種類を特定し、編年順に活字番号を付与したという(p. 13)。本書の構成は大きく4部に分かれ、1) 木版本(54版)、2) 活版印刷本(9,787版)、3) 一枚物(5版)、4) 索引となっている。2) の配列は、上記の印刷史的配列法により、印刷開始の早い国順で、ドイツ(1454年)からモンテネグロ(1493年)の13か国となり、各国内はやはり印刷開始の早い都市順で、都市内は活動の早い印刷者順、さらに、印刷者内は作品の印刷年順となる。そのため、印刷年不明書は活字の分析によってできうる限り印刷年を推定し、before, not before, after, not afterという言葉で印刷年を表現する方法を考案した。しかし、それでもなお印刷年不明の場合は印刷者の末尾へ置き、さらに、印刷者不明の場合は各都市の末尾に Miscellaneous とし、印刷地不明の場合は各国の末尾に Un-

known places として纏めた。書誌記述は、通し番号、所蔵館などを示す識別記号、印刷年、簡略書名、大英博物館蔵書目録における標目、出版者、判型、目録典拠 (Hain あるいは Campb)、活字の種類、注記の順である。活字の種類については、各印刷者の最初で解説を行ない、それぞれの活字の特徴、20行計測値、参考文献、使用された年代などを簡略に記述している。巻末には、印刷地・印刷者リスト、イギリスと低地地方印刷書を除く Hain 所収書リスト、Campb 所収の低地地方印刷書リスト、Hain 未収録書リスト、イギリス印刷書リストの5系統の索引が備えられ、検索の便を図るとともに、低地地方とイギリスの印刷書に特別な配慮を行なった。こうして、イギリスを代表する2つの図書館が所蔵するインキュナブラ約9,900版が印刷史上に位置付けられ、印刷史的観点に立った近代的インキュナブラ書誌が確立したといえることができる。ところで、Proctor は直ちに本書の訂正補遺に着手し、1899年から1902年までに4回にわたり発表して、約400版を追加した。ところが、彼がチロル地方で氷河のクレヴァースに落下して夭逝したため、1906年には Konrad Burger がこれら4回の補遺に対するコンコーダンス (*Registers to the four supplements*) を作成し、若き Proctor の仕事を成就させた。

Proctor の目録は大英博物館の Alfred William Pollard (1859-1944) 等によって博物館所蔵のインキュナブラ目録 (*The British Museum, Catalogue of books in the XVth century now in the British Museum*, v. 1-10, 12, London, 1908-1985) (BMC) に継承発展された。Proctor の作成したノートを基に、1点1点を再度詳細に検討して書誌記述を完成させながら、1908年以来現在までに1-10巻と12巻が刊行されている。全体の構成は、Proctor の目録の配列を踏襲して印刷史的観点に立ち、第1-3巻が木版本とドイツ、4-7巻がイタリア、8巻がフランス、9巻がオランダとベルギー、10巻がスペインとポルトガル、12巻がイタリア補遺に当てられている。未刊の第11巻は地元イギリスに当てられる予定で、現在編集中である。完成すれば現英国図書館が所蔵するインキュナブラ約

12,000コピーを収録することになる。全12巻のうちドイツが3巻、イタリアが5巻を占めている。特に第5巻がヴェネツィア1市に当てられているのはまさに15世紀の印刷事情を見事に反映しているといえよう。各巻の巻頭には該当国のインキュナブラ印刷史がかなり詳しく纏められている。各印刷者の始めには使用した活字・商標の分類が詳しく記述され、さらに別にファクシミリ図版も備えられている。書誌記述は Proctor とは異なり詳細を極めている。各インキュナブラは印刷者のもとに編年順に纏められ、書誌記述は大きく5つの部分からなる。1) 標目：著者名、簡略書名、印刷年、2) テキスト記述(大小文字の使用は原則としてテキストと同一、改行記号を付す)：タイトル、incipit、コロフォン、版の識別などのために重要な箇所、3) 同一版に共通するコレクション：判型、折りの順序(折記号)、葉数、フォリエーションあるいはページ付け、コラム数、行数、版面の寸法・状態、活字・商標の種類、木版、ガイドレターやキャッチワードの有無、目録典拠など、4) 最新の研究成果を取り入れた書誌学的解題、5) 各コピー固有の注記：寸法、コピーの状態、装丁、ルブリケーション、書込、コピーの由来(旧蔵者のサイン・蔵書票など)、受け入れデータ、請求記号などである¹⁰⁾。特に、活字の分類については、Proctor の方法を批判して、活字番号で表記するのではなく、インテルの入っていない20行を計測した平均値をそのまま活字の番号として用いた。というのは、印刷時に水分を含ませた紙は乾燥すれば収縮する。水分の度合いによって乾燥時の収縮率が変化するため、同じ活字でも計測値が異なる場合がある。そのため何回かの計測によって平均値を求めなければならない。すなわち、'92G'は20行計測の平均値が92mmのゴシック活字という意味である。このように標記することで、Proctor の編年の誤謬を避けることができ、また、従来知られていない活字が発見された場合に容易に番号を与えることができる。そして、目録閲覧者に活字の認識・識別を容易にし、さらに、他の印刷者の活字との比較を容易にするのである(v. 1, p. xix)。このように、本書はもはや単館の蔵書目録というよりはむしろ優れたインキュナブラ書

誌,あるいはインキュナブラ印刷史資料であり,今日最も重要な目録典拠の一つといえることができる。なお, BMC の書誌記述の方法は後にマンチェスター大学 John Rylands Library 館長 Henry Guppy により改良され,目録規則として刊行された [Guppy 1932]。

イギリスと並んで活字研究が盛んとなったのはドイツである。Burger とともにドイツを代表するインキュナブラ研究者 Konrad Haebler (1857-1946) は, Proctor の研究の不正確さを批判して, 20行計測の方法を改良し再計測した。つまり, 1 行目の底から21行目の底までの20行を計測の対象にした。また, 活字の異なる Missaltypen の場合は10行計測, Kanontypen の場合は5行計測とした。そればかりでなく, 活字の形自体の比較を行ない, ゴチック体の大文字Mの形を 101 種類に分類した。そして, 寸法と形を組合せて編年をさらに精密にし, 印刷者別に早いものから活字番号を付与した。また, Q|u あるいは Qu| の活字の形, その他の特徴的な文字の形を分類して, それぞれの使用例を調査した。こうして, *Typen-repertorium der Wiegendrucke*, Abt. 1-5 (Halle-Leipzig, 1905-24) が上梓された。Abt. 1-2 は印刷者別の活字, イニシャルレター, パラグラフマーク, 商標の分類である。国の配列は Proctor 同様に印刷史的であるが, 印刷地は各国内のアルファベット順, ところが印刷者はやはり活動開始が早い順となり, やや変則である。Abt. 3 は2分冊で, 第1冊が Antiqua-typen で Q-Formen およびその他の特徴的活字の分類表, 第2冊は Gotische Typen で M-Formen の分類表である。分類表には, 各活字の寸法, 形, 印刷者・印刷地, Ab. 1-2 への参照, 文献, 分類表内の参照, 注記が表現されている。この分類が GW の活字記述に採用されるにあたり, Haebler は Abt. 4 で Abt. 3 の補遺を行ない (1922), Abt. 5 で Abt. 1-2 の訂正増補を行なった (1924)。しかし, この分類にはゴチックとローマンの2種類の活字は区別されたが, フランスで使用されたセミ・ゴチックという分類はついに立てられず, フランスのインキュナブラの活字記述には不十分となった。その点は前述の BMC v. 8 で改善され

た。

こうして、15世紀に使用された活字、木版、商標などの全貌が科学的方法で解明され、今日のインキュナブラ研究の基礎となった。

Hain の訂正増補 —19世紀末から20世紀初め—

19世紀後半からの活字研究によって、Hain には収録されていないインキュナブラが次々と発見されるようになり、19世紀最大のインキュナブラ書誌も訂正増補が必要になってきた。先ず始めに、Hain が完成することができなかった印刷者の索引は Konrad Burger が *Register zu Hain's Repertorium bibliographicum; die Drucker des 15. Jahrhunderts* として1891年に *Zentralblatt für Bibliothekswesen* (Beiheft 8) に発表した。これにより Hain の検索が容易になった。

次に、マンチェスター法律協会図書館長を務めた Walter Arthur Copinger (1847-1910) が *Supplement to Hain's "Repertorium bibliographicum", or Collections towards a new edition of that work*, pt. 1-2 (London, 1895-1902) (C) を刊行して訂正増補を行なった。第1部は Hain の訂正である。Copinger は Campb などを用いて Hain の不正確・不完全な記述約7,000版を訂正し補った。第2部は2分冊からなり、Holtrop *Catalogus*, Campb, Brunet⁽⁴⁾, Pellechet (後述), Pr, 大英博物館の受け入れリストなどを利用して、6,619版の増補を行なった。書誌記述は、1) 著者名、2) 書名、3) 印刷地、4) 印刷者、5) 印刷年、6) 判型、7) 活字の種類、8) 折記号、9) キャッチワードおよびフォリエーションの有無、10) コラム数、11) 行数、12) 葉数の順とし (pt. 1, p. vii), 続いてテキストの記述を行ない、末尾に目録典拠および所在を記載した。Hain と比べてかなりわかりやすく、通覧しやすいものとした。そして、第1, 2部それぞれに補遺を行なった後、前述の Burger *Register* の改訂版を併載した (*The printers and publishers of the XV. Century; with lists of their works: index to the supplement to Hain's Reperto-*

rium bibliographicum, etc) (pt. 2, v. 2, p. 317-670) (**Burger**)。初版では Hain に登場する印刷者のみを対象にしたが、改訂版では独立した索引として利用可能にするため、Copinger を始め、Campb, Pellechet, Pr, Haebler¹⁵⁾などを参照して、インキュナブラ印刷者の体系的なリストを作成した。印刷者名、印刷地のもとに印刷年月日順に簡略な著者・書名、目録典拠が記述された。印刷年不明のものは各印刷者の末尾に著者名順に配列された。また、印刷事項不明書は巻末に推定印刷年順に置かれている。

続いて、ミュンスターのギムナジウム教授 Dietrich Reichling (1856-1912) が Hain=Copinger の訂正増補に着手した。彼はイタリア各地の図書館を訪れてインキュナブラを綿密に調査して、1905—11年に6回に分けて1,920版の増補と Hain=Copinger の訂正を行なった (fasc. 1-6)。書誌記述は Copinger とほぼ同様であるが、所在と目録典拠の記述はより詳細であり、異版についての注記が行なわれている。訂正の方法については、訂正箇所のみを記載した Copinger と異なり、完全な書誌記述を行なっている。そして、fasc. 7 を索引巻とし、著者、印刷地・印刷者、一般の3系統の索引を備えた。特に、印刷地・印刷者索引は印刷地のアルファベット順で、印刷者および作品は編年順となる。Reichling による増補分にはアステリスクが付されている (*Appendices ad Hainii-Copingeri Repertorium bibliographicum; additiones et emendationes*, fasc. 1-7. Monachii, Rosenthal) (**R**)。さらに、その補遺版を *Supplementum cum indice urbium typographorum; accedit index auctorum generalis totius operis* (Monasterii Guestphalorum, 1914) {**R(Suppl)**} を上梓し、225版を増補した。

さらに、上述の Burger は再び Hain 増補の一環として Hain と Panzer のコンコーダンスを作成した (*Supplement zu Hain und Panzer; Beiträge zur Inkunabelbibliographie: Nummernconcordanz von Panzers lateinischen und deutschen Annalen und Ludwig Hains Repertorium bibliographicum*. Leipzig, Hiersemann, 1908)。本書は Panzer

の2書と Hain とのコンコーダンスであるが、上記の多数の書誌・目録とも対照されている。これによって Hain がいかに Panzer を参考にしたのか、あるいは Hain とそれ以降の書誌との関係が明らかになり、当時としては検索に極めて有益なツールとなったと思われる。

こうして、Hain=Copinger=Reichling によって 25,000 版を上回るインキュナブラが収録され、版の同定が一層容易になった。また、Burger の努力により、インキュナブラ印刷者の体系的なリストとそれまでに刊行されたインキュナブラ書誌・目録の関係が闡明にされた。Hain を中心としたこれからの書誌は次に述べる GW の基礎となり、また、今日でもインキュナブラ研究上最も重要な目録典拠の一つである。

世界総合目録 GW の歩み

Burger は Hain の訂正増補を行ないながら、Hain を全面改訂して新版を編纂しようと提唱した。当時のプロシア帝国文部省はそれを受けて 1904—5 年に、*Gesamtkatalog der Wiegendrucke* (GW) を編纂するため Kommission für Gesamtkatalog der Wiegendrucke を設立し、国内のインキュナブラ研究者をベルリンに召集した。そして、まず Hain を基礎にしてドイツ各地の図書館で所蔵調査を行なった。今日でもその時の記録がベルリンの旧東ドイツ国立図書館 (Deutsche Staatsbibliothek) に保存されているが、大判のノートに縦に Hain 番号、横に図書館名があり、1点1点所蔵をチェックするものであった。ドイツ国内の所在は 1911 年 4 月 1 日現在で 676 館、145,484 コピーであった (GW Bd. 1, S. viii)。1912 年には初代委員長の Burger が亡くなり、Haebler が第 2 代委員長に就任した。国内調査に続いてスイス、フランス、オーストリア=ハンガリー、イタリア、スカンディナヴィア、アメリカ、イギリス、ベルギー、スペイン、ポルトガルなど欧米全体に調査を拡大して、世界の所在調査を敢行した。委員会のメンバーは世界中の図書館を訪問して、詳細に書誌とコピーの状態を調査した。縦型のカードに手書きで詳細に書誌を記述し、活字の

種類については前述の Haebler に則った。こうして、約40,000枚のカードが作成され、著者名順に配列された。

委員会は GW を刊行する以前から様々なインキュナブラ書誌や研究を発表して、一時代を築き上げた。その一つに、一枚物インキュナブラの書誌 *Einblattdrucke des XV. Jahrhunderts: ein bibliographisches Verzeichnis* (Halle, 1914) {GW(Einbl)} を刊行している。本書は形態別の代表的インキュナブラ書誌である。書誌記述は、通番、著者、書名、印刷地、印刷者、印刷年、判型、コレーション、活字の種類、テキストの記述、所在、ファクシミリ版刊行の記録、目録典拠などからなり、1,574版を著者名順に収録している。巻末には、印刷国別の索引があり、各国内は印刷地のアルファベット順で、印刷地内は印刷者の活動の早い順で、さらに作品の印刷年順となる。

1920年 Haebler は委員長を Erich von Rath (1881-1948) に譲って、自身はインキュナブラと装丁の研究に専念した。やがて、1925年 *Gesamtkatalog der Wiegendrucke* 第1巻が刊行され、20年に及ぶ調査が結実した。GW は Hain を現代に継承する著者名順のインキュナブラ総合目録である。最もオリジナルに近いコピーを基本に書誌を完全に記述し、目録への参照をこれまでになく綿密に行ない、さらに欧米の所在をできる限り記載した。書誌記述は第1巻序文で概要が示され、第3巻序文で独、仏、英、伊の4か国語で目録規則として解説されている。それによれば、書誌記述は大きく5つの部分からなり、1) 書誌、2) コレーション、3) テキストの記述、4) 目録典拠、5) 所在である。それぞれの部分をさらに細かく見ると、1) は著者、書名、印刷地、印刷者(出版者)、印刷年、判型からなり、2) では葉数、折記号、フォリエーション、キャッチワード、コラム数、行数、活字の種類、パラグラフ・マーク、ボーダー、商標、木版、地図等が記載される。3) のテキストの記述は従来の書誌と異なる点は、現物に用いられた活字がゴシックならばゴシック体を、ローマンならローマン体活字を用いて印刷していることである。これまでも、例えば Hain

でもこのような方法が一部行なわれていたが、その適用は極限られていた。それは当時の組版技術の問題であったのか、あるいは Hain の調査が不十分であったのかは詳らかにしないが、活字研究が緒についていない当時ではそのような活字を十分に用意することは不可能であったと思われる。その点 GW では綿密な活字研究を背景にして、15世紀に使用されたほとんど全ての字形の復元が可能であったため、このような極めて注意を要する編集作業が実現したのである。テキストの記述は上記の BMC よりもさらに詳細に行なわれ、巻頭と巻末の記述だけでなく、Pellechet を範として必ず第2折目の最初のテキストが記録された(後述)。そして、内容注記やヴァリエーションについての説明が行なわれている。GW 委員会では、このような目録原稿を作成するためにローマンとゴチックおよび多数の特殊文字・記号を同時に打つことのできるタイプライターを製作した。因みに、現在でもこのタイプライターは使用されており、20世紀の波乱の歴史を目のあたりしながら今なお健在である¹⁰⁰。

こうした極めて入念な編集作業の結果、1940年までに第8巻第1分冊まで刊行され、A—Fredericis に至る 9,729 版が収録された (Bd. 1–8, Lfg. 1. Leipzig, Hiersemann)。編集と同時に印刷地、印刷者、著者、編訳者、書名、テキストの書出しの言葉などの索引カードを作成した。しかし、第2次世界大戦突入と戦後のドイツ分割という書物にとっても誠に悲劇的な歴史が32年間の間断をよぎなくさせた。その間にすでに絶版となった本書の1—7巻が復刻された (Stuttgart, Hiersemann, 1968)。やがて、ベルリンの東ドイツ国立図書館に GW 編集室が設けられて編集が再開された。同室には目録カード調査資料が当時のまま大切に保管され、同時に編集に原稿として利用されている。そして、1972年に第8巻第1分冊の復刻と第2分冊の出版が行なわれた。第1分冊ではドイツ語版の目録規則が再録され、第2分冊には仏、英、伊、露語版の目録規則が掲載された¹⁰¹。こうして、1985年までに第9巻第2分冊まで刊行され (Berlin, Akademie Verlag)、合計 10,563 版の書誌とその所在が収録された。しかし、それ以

降も編集は続けられているが刊行は途絶えている。

1989年10月の時点で第9巻が1990年中に完成すると説明されていたが、11月9日の「ベルリンの壁崩壊」で状況は一変し、ベルリンが一体化する中で東西ベルリンの図書館も一つになる方向で検討がなされたようだ。1990年10月3日のドイツ統一で両者の組織的一体化が実現したと思われる。こうした状況の中で GW 編集室がどのようになっているかは定かでないが、刊行がかなり遅れていることだけは確かのようにだ。1940年以降 GW の中断あるいは紆余曲折の間に欧米では多くの優れた目録が刊行され(後述)、GW に頼らなくとも詳細な書誌が容易に得られるようになった。そのため、GW の意義が次第に小さくなりつつあるのも事実である。しかし、それでもなお、GW は今日でも Hain, BMC と並んで最も重要な目録典拠であるため、世界中の書誌学者から一日も早い再刊と完成が望まれている。

各国の全国所在目録(ユニオン・カタログ)

インキュナブラ初の本格的な全国所在目録は19世紀末のフランスで試みられた。パリ・コミューン包囲戦に耐えた信仰心の厚い女性 Marie Léontine Catherine Pellechet (1840-1900) は、パリ高等師範学校の司祭 Bertrand 師の影響を受けて人生の半ばにして書誌学に目覚め、師の依頼に応じてパリ国立図書館やサント＝ジュスヴィエーヴ図書館(Bibliothèque Sainte-Geneviève)を始めとしてフランス各地の図書館に所在する神学関係の文献調査を行なった。彼女が発表した最初のインキュナブラ目録はディジョン公共図書館のものである(*Catalogue des incunables de la Bibliothèque publique de Dijon*. Dijon, Gustave Lamarche, 1886) が、その時からすでにフランス全国の所在目録を作成しようとする意向をもっていった。まもなく、それがパリ国立図書館長 Léopold Delisle に伝わり、1887年に教育省に全国所在目録刊行委員会が設けられることになった。彼女は全国に調査票を送り、所蔵状況を調べ、直接各地に赴き、カルパント

ラ、ヴェルサイユ、リヨン、コルマールなどの図書館でインキュナブラの調査を行ない、個別の所蔵目録を作成していった¹⁰。彼女は Hain と Campb を参照しながら詳細に検討して、多数のインキュナブラを発見しながら精密な書誌を記述した [Ingold 1902]。こうして収集された膨大なデータが1897年に *Catalogue général des incunables des bibliothèques publiques de France*, v. 1 (Paris) (Pell) としてようやく上梓された。本書は、フランス全国の176図書館が所蔵するインキュナブラ2,386版を収録し、著者名順で Abano—Biblia までが収められている。書誌記述は上述の Campb の方法に則っているが、活字の種類の記事にはさらに多くのファクシミリ図版を引用したり、また、テキストの記事では、後に GW に受け継がれる第2折目の最初のテキストを必ず記載して巻頭巻末を欠いたコピーの同定を容易にする方法を考案するなどしてより厳密なものとした (v. 1, p. xi)。Hain に収録されていたのは1,515版であり、そのうち627版は Hain も確認していないコピーであるため、合計1,498版のインキュナブラが新たに確認されたことになる [Ingold 1902, p. 123-124]。続いて彼女は編集を進めたが、第2巻を見ることなく1900年に物故した。

本書の続刊は Pellechet の助手を務めていた Marie Louis Polain (1866-1933) に依頼された。彼は Pellechet の目録カードを再度現物にあたって詳細にチェックしながら、印刷年を年月日まで厳密に記載し、折記号を、例えば ‘signat. a-x par 6 ff., excepté b qui en a 8’ (Pell 2827) と記述してそれぞれの折りの葉数を明示し、あるいは、活字の種類の記事をさらに多数の文献を引用しながら同定して、一層入念な目録記述の方法を確立した。この方法は大方 GW に取り入れられている。こうして、Polain は第2巻 (2387—3888) を1905年、第3巻 (3889—5394) を1909年に上梓し、Biblia pauperum—Gregorius Magnus までの3,008版を収録した。さらに、Polain は第4巻以降の編集を進め、第4巻のコピーを1914年にリールの印刷屋 Danel に送ったが、第1次世界大戦が勃発、リールはドイツ軍に包囲されてしまい、印刷屋との連絡が不通になった。ところ

が、彼は1918年までに第6巻の編集が終了する予定であったという。しかし、戦後の激しいインフレのため出版資金が不足して、ついに4巻以降の目録は刊行できず、Pellechet と Polain が記録したカードはそのまま残されてしまった [Goff 1970, p. xii-xiii; Colin 1978, p. xvi]。

第1次世界大戦後の1920年、Polain は故郷 ベルギー のインキュナブラ所在目録の編集に従事するようになり、Pell の編集に二度と再び戻ることはなかった。その代わりに、Polain はその経験をベルギー版に十分生かすことができた。ベルギー版編集にあたって、彼は Pell 3巻に収録されたインキュナブラを徹底的にチェックし、訂正増補を書き込んだ。そして、*Catalogue des livres imprimés au quinzième siècle des bibliothèques de Belgique*, t. 1-4 (Bruxelles, Société des bibliothèques de Belgique) {Polain (B)} が1932年に完成、65の図書館と22の個人コレクションに所蔵される4,109版 (Polain 自身の補遺を含めて) のインキュナブラが収録された。書誌記述は Pell 第2—3巻を基本としているが、すでに刊行されていた BMC 第1—6巻と GW 第1—4巻の記述方法も考慮してコレクションなどを改良している。第1巻序文でその方法を詳細に解説している (p. v-xx)。特に、活字と折記号の記述に変化が見られる。Brant (Sebastianus), *Stultifera navis* {Pell 2820=Polain (B) 865} を例として見れば、Pell 2820 では、活字は ‘car. rom. 2 grand. et gros car. goth. ... tit. cour.; majusc. goth.; manch. en p et. car. rom’ と表現され、テキストでローマン2種類、ゴシック1種類が識別され、さらに、タイトルでゴシック1種類、とローマン1種類が識別されているが、Polain (B) 865 では、‘Car. goth. 2 grand. Très gros, type 4-BMC 220 (Burger 234 bas, droite. *Ges. f. Typ.* 497, 498. BMC LXXV); gros, type 2-BMC 180 (Burger 234 haut, gauche, gros car.); car. rom. 2 grand. gros, type 1-BMC 109a (Burger 234 bas, texte. *Ges. f. Typ.* 497. BMC LXXV); petit, type 3-BMC 77 (Burger 234 bas, gauche, manchettes, *Ges. f. Typ.* 497. BMC LXXV). ... Tit. cour.

(types 4 et 2). Manchettes.’ とあり、全体でゴシック 2 種類、ローマン 2 種類が識別され、他の文献との詳細な照合で特定されている。つまり、前者では Polain の印象的判断に基づいているが、後者ではそれが BMC などを利用して客観的に判断されている。一方、折記号については、Pell 2820 では ‘signat. a-t par 8ff. excepté t qui n'en a que 4’ であるが、Polain (B) 865 では、‘Signat. a-s⁸ t⁴.’ となり、すっきりと整理されている。また、判型の記載がコレクションの末尾から最初に置かれるようになった。

Pellechet と Polain の遺産は第 2 次世界大戦後に受け継がれ、Pell の調査カードは一括して H. P. Kraus に引き取られ、1950年にマイクロフィルムに収められて世界の代表的な図書館に提供された。同時に、オリジナルのカードはパリ国立図書館に寄贈された。1962年に大英博物館が Victor Scholderer 等によって訂正増補が多数書き込まれた BMC の手沢本を影印したことに想を得て [Goff 1970, p. xv], Polain の書込みが行なわれている Pell 第 1—3 巻の手沢本を写真複製し、さらに未刊部分 (Pell Ms) のマイクロフィルムと合わせて 26 巻本として 1970 年に刊行した (Nendeln, Kraus-Thomson)。こうして、Pellechet の全国所在目録は 11,887 版を収録して一応完成したことになった。この復刻版には Pellechet のカードと Polain の書込みおよびカードが同時に収められており、目録作成過程を垣間見させてくれる。また、Polain (B) は 1978 年に全 4 巻が復刻され、同時に補遺版 1 巻が第 5 巻として加えられた (Bruxelles, Tulkens)。第 5 巻には 4,110—4,804 までが後述する簡略な書誌記述により加えられ、巻末に Campb, GW, Hain=Copinger=Reichling, Pell, Goff, IGI (後述) などの書誌・目録とのコンコーダンスを備えて検索の便を図った。

ヨーロッパでこのような調査が行なわれていた頃、アメリカでもインキュナブラの全国所在調査が実施されていた。1904年にアメリカ書誌学会が全国所在リスト作成の提案を行ない調査が開始された。1906年には30の個

人コレクションを含む83ヵ所の所蔵に帰す3,871版のリストが作成された。しかし、これには John Boyd Thacher や J. Pierpont Morgan などの代表的な蔵書家のコレクションが含まれておらず十分なものではなかった (Goff, p. xiii)。さらに調査は続けられ、1918年によく New York Public Library の *Bulletin* に分載され、翌1919年に単行書 *Census of fifteenth century books owned in America* (New York, Bibliographical Society of America) として刊行され、アメリカの173機関および255の個人コレクションが所蔵する6,292版、約13,200コピーが収録された (Stillwell, p. xiv)。

この目録が刊行されて5年後には Margaret Bingham Stillwell が早くも改訂版の準備作業に着手している。それは、第1次世界大戦で混乱したヨーロッパから大量の古版本がアメリカに流入し、インキュナブラの所蔵が急増したためである。ところが、1929年の世界大恐慌によって多くの所蔵者がコレクションを手放すなどして所蔵状況が一変してしまった。このような激動の時代にあって、彼女は合衆国ばかりでなくカナダとメキシコをも調査対象に加えて北アメリカにおけるインキュナブラの所在目録 *Incunabula in American libraries; a second census of fifteenth-century books owned in the United States, Mexico, and Canada* (New York, The Bibliographical Society of America) (Stillwell) を1940年に上梓した。本書は画期的な著者名目録で、332機関および390の個人コレクションが所蔵する11,132版、35,232コピーを収録する (Stillwell, p. xiv) 世界最大のインキュナブラ目録となったばかりか、その書誌記述も極めて実用的で今日的な方法が考案されている。すなわち、著者、書名、印刷者、印刷年、判型からなる書誌と、注記、目録典拠、所在地で構成される簡略な記述ではあるが、インキュナブラをある程度同定できるだけの情報を備えている。各タイトルには標目の頭1字とその文字内の通番が与えられている。当時、総合的なインキュナブラ書誌は未だ Hain に頼らざるをえなかった。そのため、Hain に見られる標目と BMC, GW のそれを

対照してよりよいものを選び、一致しないものはクロスレファレンスで示した。印刷事項は BMC と Pr を基本にして表記した (p. xii-xiii)。そして、豊富な目録典拠を示すことで3次文献的な役割を担い、詳しい調査の手引書ともなっている。所在では、必要があれば各コピーに注記が加えられ、書店など今後コピーの移動が想定される所蔵者は〔 〕に入れられている (p. xiii)。そして、巻末には GW, Hain, Pr とのコンコーダンスが備えられ検索の便を図った。

第2次世界大戦後、Stillwell の助手を務めた議会図書館の Frederick Richmond Goff (1916-82) が第3回の全国所在調査を1957年から開始した。1958年末までに資料を収集して、1964年により早く刊行の運びとなった。*Incunabula in American libraries ; a third census of fifteenth-century books recorded in North American collections* (New York, The Bibliographical Society of America) (Goff) は、第2回調査同様に北アメリカに所在するインキュナブラの総合目録であり、464機関および296の個人コレクションが所蔵する12,599版、47,188コピーが収録された。この調査で初めて機関数が個人コレクションを越え、一方、版数、コピー数ともに増加したにもかかわらず、個人コレクションが前回と比べて減少した。それは、個人が機関へコレクションを譲るケースが増え、所蔵の移動が行なわれたからである。書誌記述は Stillwell のそれに準じ、各タイトルには同様な番号が与えられたが、Stillwell の番号を同時に示し、1940年以降の追加を明らかにしている。

Goff は本書刊行後も継続して北アメリカにおけるインキュナブラの収集状況の調査を続け、自身の目録にその情報を書き込んでいた。特に所在の追加、移動、販売価格などを細かく記した。そして、1972年に324版、3,560コピーの補遺版 *A supplement* (New York) を刊行し、さらに、1973年には BMC, Pell 同様に自身の手沢本をファクシミリ出版した (The editor's annotated copy reprinted by Kraus, Millwood, N. Y.)^[9]。このように、Stillwell と Goff によって行なわれたアメリカにおける所

在調査は後述する ISTC の基礎となり、今日に受け継がれている。

アメリカに続く大規模な全国所在調査はイタリアで実施された。調査は第2次世界大戦前からイタリア教育省 (Ministero dell'educazione nazionale) の手で行なわれ、Teresa Maria Guarnaschelli と E. Valenziani の編集で1943年に著者名目録 *Indice generale degli incunaboli delle biblioteche d'Italia* (Roma) (IGI) 第1巻を刊行した。目録記述は Stillwell 同様に簡略なものとしたが、これまで詳細な書誌が明らかにされていないもの (Hain に収録されているものを含む) についてはコレクションおよびテキスト記述を詳細に行ない、必要があればファクシミリ図版を添付して、その概要を明確にしている。そして、目録典拠と所在を記載した。ただし本書にはヴァティカン教皇庁図書館 (Biblioteca Apostolica Vaticana) は含まれていない。戦後に第2巻以降が刊行され、やがて、編集はローマに設立された中央書誌情報センター (Centro nazionale d'informazioni bibliografiche) に移り、1981年に第6巻をもって完成した。収録点数は10,446版、第1—5巻が著者名目録、第6巻が訂正増補と索引である。このような簡略書誌と詳細書誌の記述を必要に応じて使い分ける方法は画期的で、インキュナブラを同定し、さらに細部を調査するために必要十分な条件を備えているため戦後のインキュナブラ目録に大きな影響を与え今日に至っている¹⁰⁾。

さらに近年ではオーストラリア、ニュージーランド、ハンガリー、ポーランド、ギリシア、オランダなどでも全国調査が行なわれ、優れた目録が刊行されている¹¹⁾。

一方、我が国では、第2次世界大戦前には「日本の図書館に於て、実際に此等の図書〔インキュナブラ〕の目録を作製する機会や必要は殆んど無いであろう、且又我々一般図書館員としては、到底かかる目録を実務として満足以遂行し得るだけの学識を有して居らないけれども」と言われていた [Osa 1937, p. 371-372]。しかし、同時代に八木敏夫は東洋文庫、東京大学附属図書館、南葵文庫の3館が所蔵するインキュナブラ13点をリスト化

して、全国調査を提言した[Yagi 1931]。それは実際には行われなかったが、インキュナブラの所在調査の初の提案であった。戦後、1952年に天野敬太郎は雑誌『図書館界』で第1回の全国所在調査を呼び掛け[Amano 1952]、アンケート方式で行ない同誌に発表した[Amano 1952a]。8図書館で22点および零葉2点の所蔵が確認された。目録は印刷年順で、著者、書名、印刷地、印刷者、印刷年、葉数、寸法、目録典拠、所在からなる簡略なものである。不明確な記述のために版の同定ができないものもある。第2回の全国調査は、天理大学図書館長を務めた富永牧太によってやはりアンケート方式で行なわれ、1964—66年に『ビブリア』誌上に発表された[Tominaga 1964-66]。富永は天野の目録を無批判に受け入れ、不明確な記述を引き写したが、天理図書館所蔵書や個人コレクションなどを追加して11ヵ所71点と零葉を収録した。それ以降我が国では全国調査は行なわれていない。近年、日本経済の好調さにともない、絵画ばかりでなく貴重書の輸入が大きく伸び、多数のインキュナブラが購入されるようになった。しかし、所蔵の実態はあまり明らかではない。文化遺産であるインキュナブラが死蔵されている場合もあろう。そのため、第3回の全国調査の必要性が高まっているといえよう²⁴。

最多のインキュナブラ所蔵国ドイツでは、両大戦によってかなりの所在の変動があったが、GW以降このような全国調査は行なわれていなかった。ところが、フランクフルト、フライブルク、ミュンヘンなど有数の図書館がインキュナブラ目録を、IGI同様に簡略書誌と詳細書誌を使い分けたスタイルで刊行している²⁵。特に、かつてHainが利用したミュンヘンのバイエルン州立図書館(Bayerische Staatsbibliothek)は世界最大のインキュナブラ・コレクションを所蔵し、16,785版、19,233コピーを数える。Hain, GWでの調査にもかかわらずその全貌は明らかでなかった。そのため1971年から調査が開始され、全点のカードが作成され、さらに、書出しの言葉や装丁者、旧蔵者を含む各種の索引が準備され、1988年によりやく第1巻が上梓された {Bayerische Staatsbibliothek Inkunabelka-

talog (BSB-Ink). Wiesbaden, Reichert}. 完結までにはまだかなりの年月を要すると思われるが、完成すれば本体5巻、索引2巻になるという。これと同時に同図書館では後述する ISTC プロジェクトのなかでドイツの全国調査がコンピュータを利用して行なわれている。

Pell の刊行が未完成に終わったフランスでは、パリ国立図書館の所蔵調査が1970年代から行なわれている。約8,000版、約12,000コピーのカードを作成し、1981—85年に第2巻から刊行を始めた (*Catalogue des incunables*. Paris) (CIPBM)。現在第1巻を編集集中である。この調査と並行して地方別のインキュナブラ所蔵目録の刊行が進められており、別な形で全国所在目録が構築されつつあるといえよう²⁴。

インキュナブラ・データベース ISTC の構築

—インキュナブラ書誌の現在—

書誌・目録に対するコンピュータの応用は1970年代から著しく発展し、大規模なデータベースが構築されるようになった。18世紀の英書の書誌データベース *Eighteenth-century Short Title Catalogue* (ESTC) がイギリスとアメリカの共同作業によって構築され、オンラインによる検索が可能になった。1980年、英国図書館刊本部は ESTC に続いて、インキュナブラのデータベース *Incunabula Short Title Catalogue* (ISTC) の開発に着手した。その目的は世界中に所在するインキュナブラの全貌を明らかにし、15世紀にどれだけの印刷物が刊行されたかを解明することであり、さらにそれらの検索を容易にすることである。そのためまず、Goff 自身の許可を得て、その目録を ESTC のフォーマットを応用して MARC 化した。フォーマットは、表 [Goldfinch 1990, p. 21] に示すように (次頁参照) Goff 同様に簡略なものであるが、全世界の所在を国別に記録できるよう設計されている。そして、データベースの利点を生かして極めて多面的な検索を可能にしている。Goff に続いて、IGI には収録されているが Goff には見られない約3,000版の書誌を MARC 化して、約16,000版のデータ

List of Search and Print Qualifiers

	Search	Print
Record control number	(CN)	RCN
Language	(LA)	IC
Year of publication	Keyword (YR)	IC
Cataloguing source	Phrase (KS)	KS
	Keyword (KW)	KS
British Library Shelfmark	(MA)	MA
British Library Copy note	Keyword (CP)	CP
Author	Phrase (AU)	AP
	Keyword (AW)	AP
Title	Keyword (TW)	TI
Title heading	Keyword (TW)	TC
Place of publication	Keyword (PL)	PU
Printer or publisher	Keyword (PU)	PU
Date of publication	Keyword (DP)	PU
Format	Keyword (PH)	PH
Notes: general or production	Keyword (NG)	N00
Notes: authorship or text	Keyword (TW)	N08
Bibliographical references	Keyword (BH)	N34
Locations: United Kingdom	Keyword (VL)	LUK
USA	Keyword (VL)	LUS
Belgium	Keyword (VL)	LB
Netherlands	Keyword (VL)	LN
West Germany	Keyword (VL)	LG
Italy	Keyword (VL)	LI
Other	Keyword (VL)	LO
Queried	Keyword (QL)	QL

を集積した。そして、英国図書館、カナダ、オーストラリア、ニュージーランドのデータを追加して約18,000版のデータベースとして1984年からオンライン検索を開始した。さらに、前述のベルギー、オランダ、ハンガリー、ポーランドなどの全国書誌や、ケンブリッジ大学、オックスフォード大学、マンチェスター大学、グラスゴー大学の各図書館、スコットランド国立図書館を始めとするイギリス国内の所蔵目録²⁹や Dennis Everard Rhodes によって収集された「イギリス版 Goff」のための資料が次々に収録され

ている。最近では、ヴァチカン教皇庁図書館でコンピュータ編集された所蔵目録や、ミュンヘンのバイエルン州立図書館で開始されたコンピュータを利用したドイツ国内の所在調査が ISTC に搭載されようとしている。また、日本における所在の一部が筆者などの報告によって収録されている⁸⁹。こうして、1990年8月の時点で約24,000版が収録され⁹⁰、Hain=Copinger=Reichling を上回るのは時間の問題となった。つまり、現存するインキュナブラのほとんどすべてがデータベースというポスト=グーテンベルク時代のツールに集積されるに至ったのである。現在 ISTC は英国図書館のオンライン・ネットワーク BLAISE-LINE で検索可能であるが、まもなく CD-ROM 化され利用が一層容易になると聞く [The British Library]。

このように、ISTC は GW と並ぶ世界総合目録として急速に発展している。GW はようやく 10,000 版を越えた詳細書誌を収録したのに比べ、ISTC は実用的な簡略書誌で、目標の30,000版に確実に近づいている。そして、ISTC は世界各国のインキュナブラ所在目録や図書館の蔵書目録をデータベースに統合して一元的検索を可能にする役割を担っている。しかし、それはインキュナブラの同定にとってはあくまで2次資料であるため、詳しくは GW や BMC などを利用して詳細を調査しなければならない。従って、ISTC の完成のためにも GW の完結が不可欠であり、また逆に GW の完成のためにも ISTC の今日的情報が重要となっているのである。すなわち、伝統的な書誌学の方法と現代的なデータベースの方法とにより両者は補完し合っているのである。

上述の書誌・目録以外にも19—20世紀には主題・分野別書誌が盛んに作成されている。その代表的な例として、Klebs, Arnold Carl (1870-1943), 'Incunabula scientifica et medica; short title list,' *Osiris*, v. 4, pt. 1 (Bruges, 1938) がある。本書は自然科学, 医学, 工学などの分野に関係づけられるインキュナブラの書誌であるが, Thomas Aquinas や Diogenes Laertius, Marco Polo, さらには, Johann Trithem までも収録

対象にしており、哲学、地理、紀行などを含めた広い意味での科学を網羅した書誌である。収録点数は1,058タイトル、約4,000版。記述は極めて簡略で著者、書名の下に各版を印刷年順に配列して、版の位置付けを行っている。それぞれの版には印刷事項、目録典拠が記されている。こうして、本稿の初めに分類した13種のインキュナブラ書誌すべてが登場したことになる。

インキュナブラ書誌・目録の利用法 —まとめにかえて—

以上、インキュナブラ書誌の歴史をその起源から現代に至るまで概観し、それぞれの時代にインキュナブラがどのように認識され、どのように記述されてきたかを主要な書誌・目録を通して述べた。言及した書誌・目録は全体のほんの一部にすぎないが、それぞれの時代をリードし次代に受け継がれていったものであり、インキュナブラ書誌発展の歴史をおおよそ示していると思われる。これらの書誌は、インキュナブラの分析と同定、新たな版の発見に大きく貢献してきた。その結果、今日では版の同定を比較的容易に行なうことができるようになった。従って、本稿の締め括りとして、版の同定にはどのような書誌・目録を利用すべきかを実例を示しながら述べてみよう。

インキュナブラが我が国に新たに輸入される場合、通例、海外の古書店によって版についての調査・同定がなされており、我々が独自にそれを行なうことはあまり多くない。しかし、時には不正確なものもあるので、同定の方法は心得ておくべきであろう。版についての最も一般的な調査方法としては、まずインキュナブラの巻頭に示された著者・書名と、巻末のコロフォンに示された印刷地・印刷者・印刷年を基に Goff で著者名、書名検索を行なう。その場合、ISTC を検索すれば、Goff の倍の版の情報 that 得られ極めて有効だが、我が国からのオンライン検索は上述のように現時点ではなお不便な面がある。そのため、簡便に引くことができるという点で未だ Goff を越えるものはない。印刷事項の一致した書誌に記載され

た目録典拠の中で BMC, GW, Pell, Polain (B) などの詳細書誌をさらに検索して、それらと実際のコピーを比較対照する。これらの詳細書誌によって、コレーションとテキストの記述を比較し、完全に一致すれば同定完了である。もし、コレーションに一致しない部分があれば、手元のコピーに欠落がないかをチェックする。欠落が発見されたら、どの部分が欠落であるかを目録に記載せねばならない。多くの場合、巻頭あるいは巻末の白紙葉が欠落したり、一折りが別な部分に綴じられて折記号の順序が乱れていたりする。また、上記の書誌の記述より多くの葉数であれば、別な書物が合本されていないかを確認する必要がある。一方、テキストの記述に不一致があれば、まず対照している箇所が同一葉であるかを確認し、次にどのように異なるかをチェックする。ほんのわずかな違いのみの場合にはヴァリエントの可能性があるので、BMC, GW の注記を確認する。また、他の詳細書誌と比較することも重要である。いくつかの違いがある場合には、たいてい別な版であるので、Goff, ISTC で他の版の存在を調査する。同一印刷者が同一年に異版を印刷するケースは少なくない。また、同一年に同じ印刷地の別な印刷者が同一書を印刷する場合、異なった印刷地で同一書を同一年に印刷する場合などもあるため、印刷事項はできるだけ詳細に調べなければならない。以下にいくつかの例を挙げよう。

ヴァリエントの例としては、我が国屈指のインキュナブラ・コレクションを有する天理図書館が所蔵する Regiomontanus, Johannes. *Calendarium*. Venice: Erhard Ratdolt, 9 Aug. 1482. 4° [請求記号445-イ6 (A. 456)] [Tenri Toshokan 1989, no. 523] がある。本書は Goff R-94 に一致し、目録典拠は HC 13777*; Klebs 836.3; Redgr 29; Essling 250; Sander 6403; IGI 5311; Pr 4386; BMC V 286 (IB 20519) である。BMC で詳細書誌を調べると、テキストの記述は、la. (red) (第1葉表朱字) In Laudem operis kalendarij. s. huius Iohanne||de monte regio ... とある。しかし、天理本は朱字で In laudem operis huius praeclari a Iohanne||de monte regio ... と印刷されており、若干の違

いがある。BMC の記述の末尾を見ると、‘In some copies the incipit has been corrected as follows: In laudem operis huius preclari a Iohanne de monte regio ...’ と注記され、天理本が BMC V 286 (IB 20519) のヴァリエーションとして認識されていることがわかる。天理図書館の目録でも ‘In this copy the incipit is corrected (cf. BMC).’ と注記されている [Tenri Toshokan 1989, no. 523]。因みに、Erhard Radolt はヴェネツィアとアウクスブルクで活動した革新的な印刷家であったが、彼のヴェネツィアでの全作品を目録化した Gilbert R. Redgrave はこのヴァリエーションの存在を認識していなかった [Redgrave 1894, p. 35]。

同一印刷者・同一印刷年の異版の例としては、慶応義塾大学図書館が所蔵する Armandus de Bellovisu. *De declaratione difficilium terminarum tam theologiae quam philosophiae ac logicae*. Basel: Michael Wenssler, 1 Apr. 1491. 8° [請求記号 120x-788-1] がある。本書は Goff A-1056 であり、目録典拠は H 1794*; Pell 1271; Polain (B) 310; IGI 857; Pr 7589; BMC III 734 (IA 37146a); GW 2502 である。ところが、Michael Wenssler はこの書物を 1 ヶ月前の 1491 年 3 月 1 日にも印刷しており、それは Goff A-1055 である。この版の目録典拠は H 1793*; Polain (B) 311; Oates 2750; Pr 7588; BMC III 733 (IA 37146); GW 2501 である。GW, BMC によれば、両版の違いは、コレーションでは GW 2501 にフォリエーションがあるが、GW 2502 にはそれがなく、テキストでは、第 1 葉表の標題末尾で、GW 2501 は ‘ac Logice.’ であるが、GW 2502 では ‘ac logice.’ と小文字になる。さらに、第 2 葉表で、GW 2501 は ‘Incipit Epistola proemialis in Tractatus de Declaratione difficilium dictorum et dictionū in Theologia.’、GW 2502 は ‘Incipit epistola proemialis eximii doctoris Armadi.’ そして、第 175 葉裏のコロフォンで、GW 2501 は ‘... Philosophie atq; Logice declarationum Explicit foeliciter Anno salutiferi virginis partus. M. cccc. xci. Prima Marcij. in insigni vrbe Basileorum.’、GW 2502 は

‘... Philosophie atq; Logyce declara- || tium. Impensis Michaelis wensler In vr- || be Basileorum diligentissime elaboratu finitū || est foeliciter Anno christianissimi partus. post || Millesimū quaterq; centesimum nonagesimo || primo Kalendis Aprilibus.’ となり、印刷事項の記述が大きく異なっている。GW は両版の関係には言及していないが、BMC では GW 2501 で印刷のエピソードが注記され、GW 2502 では前者にかなり近似した複製版であると見做している。

戦前に収蔵されたインキュナブラの中には十分な調査がなされておらず、再調査の必要があるものがある。例えば、大正12年3月に一橋大学が購入したカール・メンガー文庫は現在同大学社会科学古典資料センターに保存され、閲覧に供されている。この文庫には5点のインキュナブラが含まれているが、Inc. 3 は、目録では *Incipit tabula restitutionum usurarum et excommunicationum edita per Venera Bilem dominum fratrem Franciscum de platea ordinis minorum. Venecia: Nicolao Trino Duce, 1473.* とあり著者・書名が特定されず、巻頭の書出しが代用されたいわば同定されていないものである [Bibliothek der Handels-Universität Tokio, p. 38]。前述の天野 (no.2)、富永 (no.2) 両氏はこの記述を無批判にそのまま目録に採用し、独自の調査を行なわなかった。実際に本書を調査すると、先ず、*Incipit* の部分を読むと、修道僧 Franciscus de Platea の編集したものであることがわかる。また、コロフォンには、ヴェネツィアのドゥカ Nicolao Trono の治世の1473年に Leonhardus がパドゥヴァで印刷した旨が記されている。つまり、メンガー文庫目録に記載された印刷地・印刷者は全くの誤りである。以上判明した点を先ず Goff で検索してみると、P-753 Platea, Franciscus de. *Opus restitutionum, usurarum, excommunicationum.* Padua: Leonardus Achates, de Basilea [not after 28 July] 1473. f° Ref: H 13036*; IGI 7841; Pr 6776; BMC VII 909 (IB 29876). という書誌が見いだされ、本書と一致する。次に、目録典拠から詳細書誌を得る。この場合は Hain 以外では BMC のみが

詳細である。BMC VII 909 (IB 29876) の記述と対照するとテキストが一致する。また、全 174 葉、折記号は A¹⁰ B⁸; a-f¹⁰ g⁶ [h-q¹⁰] であり、h 以降は手書きとある。本コピーは巻末白紙 1 葉を欠き 173 葉であるが、テキスト部分には欠落はなく完本である。折記号 h 以降も同様に手書きされている。こうして、本書が H 13036* であると同定されよう。

わずかな例ではあるが、インキュナブラの同定・分析にはこのような書誌を十分活用することが不可欠であることが理解されよう。また、それらの書誌から得られる情報は書物自体の意義ばかりでなく、コピーそのものの意義あるいは価値を知ることには十分役立つであろう。

注

- (8) 本稿の第 1 部は本誌『早稲田大学図書館紀要』33号, 1991年, p. 1-20。なお、注の番号は第 1 部から継続する。略語は第 1 部に示す通りである。
- (9) 本書は第 4 版 (London, 1827) まで刊行され、2 巻本となった。
- (10) Dibdin と Spencer の伝記事項の多くは *Dictionary of national biography* の該当項目を参照した。
- (11) オランダの印刷術の開始はユトレヒトで 1469 年と推定されている [Berkowitz 1967, p. 295]。
- (12) 低地地方印刷のインキュナブラ書誌は、Campbell 以降、Proctor, Polain, E. Voullieme, M. E. Kronenberg, Lotte & Wytze Hellinga らが 10 回にわたって補遺を行っている。詳細は *Der Buchdruck* 1988, S. 193 を参照。
- (13) BMC では書誌記述を 4 つに分けて説明しているが、これらの説明にはない書誌学的解題が 3) と 5) の間にしばしば挿入されている。
- (14) Brunet, Gustave. *La France littéraire au XVe siècle*. Paris, 1865.
- (15) Burger は Haebler のスペイン・ポルトガル印刷目録 (Haebler, Konrad. *Bibliografía ibérica del siglo XV*, v. 1-2. The Hague, 1903-17) を原稿の段階で利用しているという (Burger, p. xii)。
- (16) 旧東ドイツ国立図書館の GW 編纂室の様子は拙稿 [Yukishima 1990, p. 8-9] 参照。なお、拙稿中の「ニッケル・ホルガー博士」は氏名が逆転しており、正しくはホルガー・ニッケル (Holger Nickel) 博士でした。ここに訂正してお詫びする次第です。
- (17) 拙稿 [Yukishima 1990, p. 8] では、「独、英、仏、伊、西、露の 6 か国語で」としましたが、これは筆者の記憶違いでした。西を除く 5 か国語で目録規則が掲

載されています。ここに訂正してお詫びする次第です。

- (18) カルパントラの目録は *Notes sur les imprimeurs du Comtat Venaissin et de la principauté d'Orange et Catalogue des livres imprimés par eux qui se trouvent a la Bibliothèque de Carpentras*. Paris, Alphonse Picard, 1886.
 ヴェルサイユは *Catalogue des incunables et des livres imprimés de MD. a MDXX.; avec les marques typographiques des éditions du XVe siècle*. Paris, Alphonse Picard, 1889.

サントニジュヌヴィエーヴ図書館は *Catalogue des incunables de la Bibliothèque Sainte-Geneviève*. Paris, Alphonse Picard, 1892.

リオンは *Catalogue des incunables des bibliothèques publiques de Lyon*. Lyon, Leon Delaroché, 1883.

コルマルは *Catalogue des incunables de la Bibliothèque de la ville de Colmar*. Paris, Cercle de la librairie, 1895.

- (19) Goff 北アメリカにおけるインキュナブラの所蔵統計を以下のようにまとめている [Goff 1976; 1979]。ただし、1919年は合衆国のみの数値。

調査年	機関数	個人蔵書数	版数	コピー数
1919	173	255	6,292	13,200
1940	332	390	11,132	35,232
1964	464	296	12,599	47,188
1971	526	333	12,923	50,748
1975	546	345	13,014	51,815
1978	554	346	13,044	52,387

- (20) このような方法は後に Curt F. Bühler が理論的にまとめており [Bühler 1949]、今日、インキュナブラ書誌作成のガイドラインとなっている。

- (21) オーストラリア・ニュージーランドのユニオン・カタログは Kaplan, H. G. *A first census of incunabula in Australia and New Zealand*. Sydney, Public Library of New South Wales, 1988. (Kaplan)

ハンガリーは *Catalogue incunabulorum quae in bibliothecis publicis Hungariae asservantur*. Ediderunt Géza Sajó et Erzsébet Soltész. v. 1-2. Budapestini, 1970. (Sajó-Soltész)

ポーランドは *Incunabula quae in bibliothecis Poloniae asservantur*. compo-suerunt Maria Bohonos et Elisa Szandorowska. v. 1-2. Wrocław-Warszawa-Kraków, 1970. (IBP)

ギリシアは *Incunabula in Greece; a first census*, compiled by Dennis E. Rhodes. München, 1980.

オランダは *Incunabula in Dutch libraries; a census of fifteenth-century printed books in Dutch public collections*. Editor-in-chief: Gerard van Thienen. v. 1-2. Nieuwkoop, 1983 (*Bibliotheca bibliographica Neerlandica*, v. 17, 1-2) (IDL)

(22) 筆者は第3回全国調査のため1988年秋以来全国のインキュナブラを所蔵する図書館を訪問して、現物調査を行っている。各図書館で暖かい御協力を頂いており感謝に耐えない。この場を借りて心から御礼申し上げる次第です。なお、今後とも御協力の程よろしくお願い申し上げます。調査結果の報告は近く予備版として上梓したいと考えております。

(23) フランクフルトの目録は *Inkunabelkatalog der Stadt- und Universitätsbibliothek; und anderer öffentlicher Sammlungen in Frankfurt am Main*, bearb. von Kurt Ohly und Vera Sack. Frankfurt am Main, 1966-67 (*Katalog der Stadt- und Universitätsbibliothek Frankfurt am Main*, Bd. 1). (Ohly-Sack)

フライブルクは *Inkunabeln der Universitätsbibliothek und anderer öffentlicher Sammlungen in Freiburg im Breisgau und Umgebung*. Beschrieben von Vera Sack. Tl. 1-3. Wiesbaden, 1985 (*Katalog der Universitätsbibliothek Freiburg im Breisgau*, Bd. 2). {Sack (Freiburg)}

近年ドイツで刊行されたその他のインキュナブラ目録は Geldner 参照 [Geldner 1978, S. 239]。

(24) フランスの地方別インキュナブラ所蔵目録は現在までに7巻を数える。

Catalogues régionaux des incunables des bibliothèques publiques de France. v. 1-7. Bordeaux-Paris, 1979-90. V. 1: Bibliothèques de la région Champagne-Ardenne, par Jean-Marie Arnoult, 1979; v. 2: Bibliothèques de la région Languedoc-Roussillon, par Martin Lefèvre, 1981; v. 3: Bibliothèques de la région Midi-Pyrénées, par Christian Péligrý, 1982; v. 4: Bibliothèques de la région Basse-Normandie, par Alain Girard, 1984; v. 5: Bibliothèques de la région des Pays de la Loire, par Louis Torchét, 1987; v. 6: Catalogue des incunables de la Bibliothèque Mazarine, par Denise Hillard, 1989; v. 7: Bibliothèque de l'Institut de France, Bibliothèque Thiers, 1990.

(25) ケンブリッジ大学図書館所蔵のインキュナブラ目録は Oates, J. C. T. A. *A catalogue of the fifteenth-century printed books in the University Library Cambridge*. Cambridge, 1954. (Oates)

オックスフォード大学では、まず、ボドリアン図書館の目録は未刊行のマニユスクリプト Sheppard, Leslie A. *Catalogue of XVth century books in the Bodleian Library* (Sheppard) がある。また、各カレッジの図書館所蔵のイン

キュナブラ目録は, Rhodes, Dennis E. *A catalogue of incunabula in all the libraries of Oxford University outside the Bodleian*. Oxford, 1982 {Rhodes (Oxford Colleges)} がある。

- (26) 筆者は1989年9月と1990年10月の2回, 日本国内に所在する合計約160版のデータを英国図書館 ISTC 編集室へ報告した。
- (27) 1989年の ISTC の解説文 [The British Library] では約23,000件のレコードが搭載されていたが, 1990年8月の解説文では約24,000件と増加している [The British Library 1990, p. 1]。

参考文献

- Amano 1952: 天野敬太郎「インキュナビュラについて」『図書館界』4巻2号, 1952. 8, p. 68-70.
- Amano 1952a: 天野敬太郎「本邦所在インキュナビュラ総合目録」『図書館界』4巻3号, 1952. 11, p. 114-116.
- Berkowitz 1967: Berkowitz, David Sandler. *A manual of bibliographical guides to inventories of printings, of holdings, and of reference aids; with an appendix of useful information on place-names and datings*. Waltham, Mass., 1967 (*Bibliotheca bibliographica incunabula*).
- Bibliothek der Handels-Universität Tokio 1926: Bibliothek der Handels-Universität Tokio. *Katalog der Carl Menger-Bibliothek in der Handels-Universität Tokio*. Tokio, 1926.
- Bradshaw 1870=1889: Bradshaw, Henry. 'A classified index of the fifteenth century books in the De Meyer Collection sold at Ghent, November 1869,' *Collected papers of Henry Bradshaw*. Cambridge, 1889, p. 206-236.
- Bradshaw 1871=1889: Bradshaw, Henry. 'List of the founts of type and woodcut devices used by Holland in the fifteenth century,' *Collected papers of Henry Bradshaw*. Cambridge, 1889, p. 258-279.
- The British Library: 英国図書館 ISTC 編集室著, 雪嶋宏一訳注「データベース ISTC について」『現代の図書館』29巻2号, 1991. 6, p. 99-104.
- The British Library 1990: The British Library. 'News from ISTC, August 1990' Blaise-Line パンフレット1990年版。
- Der Buchdruck 1988: *Der Buchdruck im 15. Jahrhundert; eine Bibliographie*, hrsg. von Severin Corsten und Reimar Walter Fuchs. Tl. 1. Stuttgart, 1988 (*Hiersemanns bibliographische Handbücher*, Bd. 7, 1).
- Bühler 1949: Bühler, Curt F. 'Incunabula,' *Standards of bibliographical description*. Philadelphia, 1949, p. 3-60.

- Colin 1978: Colin, M. Georges. 'M. -Louis Polain, ou L'incunabuliste malgré lui,' *Catalogue des livres imprimés au quinzième siècle des bibliothèques de Belgique*. t. 1. Bruxelles, 1978, p. v-xlvi.
- Geldner 1978: Geldner, Ferdinand. *Inkunabelkunde; eine Einführung in die Welt des frühesten Buchdrucks*. Wiesbaden, 1978 (*Elemente des Buch- und Bibliothekswesens*, Bd. 5).
- Goff 1970: Goff, Frederick R. 'Preface,' *Catalogue général des incunables des bibliothèques publiques de France*. v. 1. Nendeln, 1970, p. v-xviii.
- Goff 1976: 'An interim report on the collecting of incunabula by American libraries,' *Gutenberg Jahrbuch*. 1976, p. 162-164.
- Goff 1979: Goff, Frederick R. 'Inkunabelkatalogisierung in der vereinigten Staaten von America,' *Zentralblatt für Bibliothekswesen*. Jg. 93, Heft 10, 1979, S. 498-500.
- Goldfinch 1990: Goldfinch, John. *Searching the ISTC on Blaise-Line*. London, 1990.
- Guppy 1932: Guppy, Henry. *Rules for the cataloguing of incunabula*. 2. ed., rev. London, 1932.
- Hobson 1970: Hobson, Anthony. *Great libraries*. London, 1970.
- Ingold 1902: Ingold, A. M. P. *Notice sur la vie et les ouvrages des Marie Pel-lechet*. Paris, 1902.
- Osa 1937: 大佐三四五『洋書目録法の理論と実際』東京, 日本図書館協会, 1937.
- Rath 1925: Rath, Erich von 'Zur Biographie Ludwig Hains,' *Bok- och biblioteks-historiska studier*. Uppsala, 1925, S. 161-182.
- Rath 1945: Rath, Erich von. 'Ludwig Hain,' *Studien zur Geschichte des Buchdrucks und der Bibliographie*. London & Köln, 1945, S. 57-79.
- Redgrave, Gilbert R. Erhard Ratdolt and his work at Venice; a paper read before the Bibliographical Society, November 20, 1893. London, 1894 (*Illustrated monographs*, no. 1).
- Tenri Toshokan 1989: 天理図書館『天理図書館稀書目録 洋書之部第四』天理, 1989 (天理図書館叢書第四十一輯)。
- Tominaga 1964-66: 富永牧太「インキュナビュラの本邦所在目録」『ビブリア』29号, 1964, p. 110-103; 30号, 1965, p. 128-113; 31号, 1965, p. 144-128; 33号, 1966, p. 128-123.
- Yagi 1931: 八木敏夫「インキュナビュラの二地誌に就いて」『玉屑』第4冊, 1931, p. 1-14.
- Yukishima 1990: 雪嶋宏一「ベルリンにて」『ふみくら 早稲田大学図書館報』

No. 22, 1990. 1, p. 6-9.

付記：本稿は、1989年5月20日に早稲田大学で開催された西洋古版本研究会で発表した原稿を基に、1989年8月から90年2月まで早稲田大学職員海外研修の機会にヨーロッパ各地の図書館で調査した成果を取り入れて大幅に訂正増補したものである。末尾ながら、西洋古版本研究会と海外研修の際お世話になった方々に感謝の意を表します。

補遺：本稿脱稿後次の文献を知った。河合忠信「インキュナブラ考—天理図書館「グーテンベルクの世紀」展によせて—」『学鑑』v. 86, No. 10, 1989. 10, p. 16-19。河合氏はその中で‘*incunabula*’の語義・由来に言及し、「*ペルナルド・フォン・マリリンクロット*」以来の用例を挙げているが、その語が「西欧十五世紀活字印刷本を指すようになった」(p. 17)契期をウィリアム・モリス等に関係づけているのみで、本稿で述べたような研究成果を参照していない。また、インキュナブラ目録の最初を「ソウベルツス (*Saubertus*) によるニュールンベルク州立図書館の約八二五点のインキュナブラ目録」(p. 17)として、マリリンクロットの目録に触れていない。

補注：William Blades の業績については、ロッセ・ヘリンガ著、高宮利行訳『チャクストン印刷の謎—イングランドの印刷事始め—』雄松堂出版。1991. p. 33-40参照。

(ゆきしま こういち 文学部教員図書室)